

消防団についての協議は、旧西尾市の議員全員協議会では十分に議論されることなく多くの議員の協議続行を無視して、途中で打ち切り。そのまま先送りされてしまったという経緯があります。しかし、合併はなされたわけですから、これから良い方向にしていかなくちやと思うのは、皆同じだと思います。

「合併後に協議する」とされていた他の事業と同じように、住民のみなさんに充分納得していただけるよう調整しなければなりません。

私は、頭から消防団を否定しているわけではありません。
しかし、制度のなかったまちからすれば、
黙って今まで通りを認めろと言われても、ちょっと待って下さいとなりましょう。

辛口議会だよりでは、「公費で宴会」にクレームがついたようですが、
繰り返し言うように、宴会で士気を高めることは大いに結構です。
ただし、私費でやって下さいねというだけなのです。
そのためには、報酬や費用弁償はご本人に渡す本来の姿にする必要があります。
本人に手渡った段階で、公費から私費になるのですから。

昔は、西尾市議会でも、12月議会の終わりに「市長招宴」があったそうですが、
20年以上前に廃止。今も懇親会はありますが、全員会費制です。
予算編成方針では、
「食糧費においては、会議に伴う会食は認めない」となってもいます。
今まではともかくとして、今後は、公私の別をつけて下さいというだけなのです。

団員のなり手がなくて毎年、苦勞しておられるとのこと。全国的な傾向ともききますが、
そうなら、それは何故かを考えていかなければならないと思うのです。
(辛口に書かれちゃうと、さらに確保に困るとのご意見もいただいたようですが)

昔と比べると就労形態が変わったこと、時代の変化が大きいのではないかと思います。
そうなら、どうすればよいのか…要因は何なのか…
活動形態や訓練が大変なのか、内容が大変なのか、他に理由があるのか…
あれこれ考え合わせる中で改善が図れるのではないだろうか…と期待するのです。
合併を機会に、費用面も合せてやり方を考えるチャンスではないかと
私を含め、多くの議員が思っていると思います。

一生懸命やっておられる団員が大勢いらっしゃるわけですから、私はむしろ、
お礼の飲み食いなどで補おうというのは失礼ではないかとも思うのですが、
いかがでしょうか。

11月25日付けの朝日新聞に「消防団員の犠牲防げ」との記事がありました。正確には、水防団としてでしょうが、消防団と兼ねているためですね。

「水門閉鎖行かせられぬ」「水門などの自動化・廃止…進む対策」との見出し。東日本大震災の惨禍をうけて、総務省消防庁では、検討会を設置、年度内に安全対策の結論を出すといっています。

一方、最大13mの津波を想定する高知県では、3年前に「県南海地震による災害に強い地域社会づくり条例」を制定して、水門の開閉自動化と、防波堤の内外を行き来できる階段やスロープを整備し、「陸こう」自体の廃止を進めているといっています。

計1173基あった陸こうのうち3月末までに101基を廃止し、市町村や地元漁協などと協議し、来年度から3年間でさらに100基あまりを廃止するといっています。

通常時は閉めておく「原則閉鎖」も徹底。今年度中に287基を閉鎖。

消防団などと来年度以降に交わす協定・契約書には、

「身の危険を感じる地震が起きた際は、水門・陸こうの閉鎖作業は行わない」と明記することも検討中だそうです。

同県では、消防団員が使命感で命を落とす不幸な事故を防ぎたいとのコメント。まったくその通りだと、私も思います。

また、和歌山県でも、全市町村でこれまでの避難所が適切かどうかを緊急点検。団員が水門を閉めてから指定の避難所まで、津波到達想定時間までに帰り着くのが難しいところが46箇所もあったことから、こうした水門は「閉鎖せずに逃げる」という方針を操作者に年内に通知。できるだけ早く自動化を進めるとのことです。愛知県も、早急に点検・方針を出すべきだと思います。どうぞ、ご覧になってみて下さい。お知らせいただければ同紙は用意いたします。